

第2回名古屋市障害者施策推進協議会

(「名古屋城木造天守の昇降技術に関する公募について」のみ)

名古屋市民オンブズマンによるメモ

15:50

名古屋市：議題9 名古屋城木造天守の昇降技術に関する公募について

名古屋城総合事務所 梅田：57 ページ

目的：公募で決める

概要：求める昇降技術 特定の技術を排除しない

主な条件：大天守の柱、梁を傷めない

少なくとも大天守1階に昇降

天守台石垣の上部

地上面から12メートル

公募への高齢者、障害者等の参画：まず意見を聞く

その後昇降技術の選定を実施

再提出をしてもらう

最優秀者選定前にブラッシュアップ

審査方法：書類審査、プレゼンテーション審査実施

今後 選定内容 全体のバリアフリーの方針 復元計画に反映

公募スキーム見直し：令和2年度当初

なかなか竣工時期見通せない

文化庁から手続き示された

復元検討委員会が開催されれば竣工時期見通せる

それには復元計画が必要

その後昇降技術開発 皆様からの意見聴取 適宜

このころ 復元時期が見えてくるだろう

大天守1階 意見いただいている

難しい課題山積 目標は5階まで求める 変わっていない

提案を幅広く 5階までやりたい

説明は以上

15:57

会長：質問意見は

わっぱの会斎藤：各団体回って説明 苦労

文化庁 バリアフリーやれ

むりやり国際コンペしようと思えない
現実的に可能な技術
未来の技術 説明されているが、最優秀
作ってみて安全性 基準をクリアできるか見通しがつかない
文化庁の許可を出す 無責任
文化庁が認めるなら、可能な技術
石垣問題 解決
できない 計画そのものがおかしい
いつまでもしぼられて、名古屋城眠らせたままにしている
はやくこの問題を解決すべき
いつ解決するか 計画に突き進んでいる
国際コンペ 海外企業 「実現しませんでした」無責任
日本の信用にも関わる

梅田：新技術 安全性、耐久性大切
文化庁の許可がないと復元実現しない
文化庁と協議しつつ進めている
今までの既存の技術の応用、組み合わせで新しい技術も出てくる
認証機関アプローチしている
実用化可能性が見込めないところはダメ
提案技術 実用化できるのか？見極めたい

斎藤：先般名古屋市議会
「障害者団体の理解を得てから」付帯決議
理解を得たという認識か

梅田：団体連絡会で説明
公募実施 理解を得ていきたい

会長：これからということか

梅田：これまでは個別 一定程度は公募の実施は認めているのではないか
公募前にもう一度説明したい

斎藤：名古屋市は春からやると言っている

会長：具体的にどう進めていくか

笹川：担当がやっていると思うが、お願いしたい
障害者当事者の参画が必要
意見を聞くだけではなく、選定まで当事者がかかわってほしい
個人的に思う
いろんな障害者 かかわる
設備を使う当事者の意見を
私はいずれは階段を使えなくなる

会長：意見

梅田：ありがとう

会長：ほかはいいか
議題は以上 ほかに追加、意見は

今井：名古屋城木造復元 最も問題 石垣
災害 石垣が崩れて城全体が崩れた
名古屋城で崩れたら心が痛い
石垣をまず直さないで復元したとしても地震で崩れるのか
不安
首里城 復元して火災で焼失した
名古屋城 木造復元した 火災焼失したらだれが責任とるのか
私の中 江戸時代 ほとんど木造
現在 災害、防災 もう少し防災のことを検討して 思う
復元は賛成 もう少し防災を意識して
まずは石垣をしっかりしてから復元を
安心して登れるのか 床や天井が傷つけないか疑問
問題点がいくつかある
検討して直して 耐震補強を考えないと
なんか危険と思う
この辺はどうしたらいいのか
検討していただきたい 要望

梅田：要望ありがとう

石垣 1959現在コンクリ天守
木造→コンクリ 荷重が全然違う

石垣で荷重支えていない
ケーソンで支えている
石垣 江戸期残っているもの多々ある
残されているもの 保護する
それを踏まえたうえで復元
戦争で焼け落ちている 熱を受けて劣化
手を入れながら石垣保存方針を定める
これから調査していく
防災 安全 避難が大事
竣工までに防災計画 昇降計画入った後に見直し
安全に建物に入ってもらう ご理解いただきたい

会長：準備段階 それぞれの段階で説明を
時間の関係 これで終わりたい
今年最後の会議 協力いただき円滑に進められた
次年度委員 選出される方 ご協力を
退任 長い間ありがとう 感謝
終わり

事務局：ありがとう
委員の皆さん 任期中今日が最後 2年間ありがとう
5人が退任
今年度最後終了
16:11